

## <タイトル>

Disaster research: for volunteers only (災害後の研究は自主的な参加者だけに)

<http://doi.org/10.1038/d41586-020-00695-0>

## <概要>

災害の後で、住民が行政や専門家に救助や支援を求めるのは当然のことです。このような状況下では、問題を十分に考えることなしに研究に参加することに同意することがあります。福島原発事故後の甲状腺スクリーニングでは、受診者やその家族は文書による同意をしていますが、過剰診断の不利益があることを知りません。検査は学校の授業時間中に行われており、参加が義務的であるという印象を与えている可能性があります。災害地域での研究への参加を自主的にするための行動規範が重要です。

Nature 誌の同号の同ページには、小林智之博士らの意見表明「Disaster research: feedback to society (災害後の研究: 社会へのフィードバック)」も掲載されています。こちらでは、調査の結果を社会で共有することやデータを集める前後に地域で会合を持つことの重要性が指摘されています。